

【詳細】令和7年度新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)に係る事業実施結果報告
(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

NO.	交付対象事業の名称	事業内容	開始年度	総事業費	交付金額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値	実績値を踏まえた事業の効果について					
				単位:円	単位:円	指標	事業開始前	目標値(R7年度)	実績値(R7年度)	効果	実績に対する評価	KPI未達成理由	今後の方針		
1	「元気なしまびと」を起点とした「魅力あるしま」づくりプロジェクト	【交流・居場所づくり ～社会参加及びコミュニティ形成の促進～】 ◆年齢や性別、障がいの有無を問わず多様な人々が、それぞれ関わりをもつため、交流・活動の拠点を設置し、同時に子育て環境の向上等に取組むことで、様々な人の社会参加やコミュニティの形成を促す。 【活躍・しごと ～生涯活躍のまち＝「魅力あるしま」へ～】 ◆女性や高齢者、障がい者等を含め、誰もがその能力を生かしてコミュニティの中で活躍するために、個々のニーズに応じてスキルやポテンシャルが活かせるような地域課題解決や地域活性化の取組みに対し、支援を行うことで、持続可能な地域づくりを図り、ひいては就業機会の創出にも繋がる。 【市民の健康対策 ～「元気なしまびと」づくり～】 ◆生涯現役の人材育成に向け、健康寿命、食育、運動及びそれらの教育にアプローチする事業を行うとともに、医療・介護・福祉等の各種施策・支援に横断を通し、一体的かつ効果的に事業を推進するための組織との連携を図ることで、自発的かつ持続的な健康づくりを展開する。	R4	50,459,473	25,229,736	①	地域づくり活動に関わった人数(人)	4,442人	4,570人	6,348人	地方創生に非常に効果があった	（事業評価） 【交流・居場所づくり ～社会参加及びコミュニティ形成の促進～】 ■地域力強化推進 ・総合的な相談支援体制としてCSWや包括化推進員を配置することにより、相談内容に応じて関係機関へつなぐなど、地域生活課題の解決に向けた体制の構築を図ることができた。 【活躍・しごと ～生涯活躍のまち＝「魅力あるしま」へ～】 ■地域づくり活動支援 ・地域コミュニティの維持を図るため、地域内での困りごとの解決や助け合い活動に取り組む集落に交付金を交付し、R7年度は35集落を支援した。 【市民の健康対策 ～「元気なしまびと」づくり～】 ■自発的かつ持続的な健康づくりの推進 ・健康寿命日本一を目指し、自分の健康に関心を持ち、かつ実践に繋がるよう、包括連携協定企業や関係機関等と協働し、学・食・遊をテーマに健康フェスティバルを実施した。参加者の96%が「健康意識が高まった」と回答するなど、体験ブース(減塩・肥満予防対策ブース)を中心に健康への関心を高めるきっかけづくりが図られた。 ・令和6年度のアンケート結果をもとに各種教室(社会教育事業)を行ったが、SNSでの開催周知を徹底したことにより、参加者の増加につながった。また、ニーズのある健康・スポーツ教室や親子運動あそび教室等についても、市内各地で実施したことで、多くの参加があった。 ・事務局運営費を一部負担し協議会の運営体制を安定的なものとし、健康づくりに関する一体的な体制の構築に向けて協議を行った。 各種施策・支援の成果の集約と各専門分野における検討及び効果的なフィードバック体制としての「健康プラットフォーム」の確立に向けて、継続して検討を進めた。	(KPI未達成理由) 未達成なし	（実績を踏まえた事業の見直し） ■KPI①地域づくり活動に関わった人数 ・持続可能な地域づくりを推進するうえで、より多くの地域活動を支援できるよう、補助率を見直して実施する。 ■KPI②しまびと元気応援団参加数 ・健康フェスティバル来場者の興味関心度が高かった健康度をチェックする測定を充実させ、自身の体の状態を理解し、健康への関心度をさらに向上させる。また、健康さど21計画目標達成のため、「カラダにやさしお」をテーマに減塩と肥満予防対策の取り組みを重点に実施するほか、健康ぽいんと付与対象として実施し、個人インセンティブをきっかけに「自ら健康づくりに取り組む」市民を増やし、健康課題の改善やフレイル予防につなげる取り組みを行う。 ■KPI③健康・スポーツ教室、ウォーキング教室の参加者数 ・アンケートの結果等から内容を検証してブラッシュアップし、開催周知を徹底することで、更に参加者数増を図る。また、教室の最初に保健師の健康講話を盛り込むなど、他課とも連携しながら健康づくりの意識付けを図り、健康寿命の延伸に取り組む。 ・地域包括ケアの機能強化や地域コミュニティづくり等の取組みについての成果集約と、施策や民間事業へフィードバックできる体制「健康プラットフォーム」の構築に向けて、具体的な体制や取り組みを整理し、事業開始を目指す。	
2	安心して暮らし続ける島×地域循環共生圏の創出～多様な連携による持続可能な仕組みづくり～	【SDGsの推進】 ◆SDGsの取組に意欲を持った事業者の掘り起こしのため、市と民間事業者が連携し「佐渡SDGsパートナー」加入数増を目指す。また、他のSDGs未来都市等との連携に係るイベント等へ参加、佐渡SDGsパートナー登録など、SDGsの普及啓発に資する取組を展開する。 【島の環境】 ◆脱炭素化を自分ごとの課題として認識させ、太陽光をはじめとした再生可能エネルギーの地産地消を推進するため、一般家庭や事業等での再エネ導入を普及を促進し、太陽光発電設備等導入、電気自動車購入に係る経費の一部を支援する。また、低炭素化、再エネの自立分散化、地産地消の更なる促進に向け、EV自動車等の導入、公用車のレンタカーシェアリングの取り組み、離島地域のモデルとなる仕組みづくりを行う。 【島の経済】 ◆若者(学生)の交流拠点・情報共有の場として令和7年度より本格的に供用を開始する。当番は市直営で運営し、一定の定着、基盤が整ったところで民間での運営に移行する。 【島の社会】 ◆SDGsを推進するにあたっては、ハード面のみならず、環境・経済・社会に好循環をもたらす人づくりと地域づくりのソフト面にも力を注ぐ。人づくりと地域づくりの実践に向けて、専門家に「佐渡市総合戦略アドバイザー」として参画してもらい、SDGsの考え方を取り入れた「佐渡未来講座」を開催。SDGsの普及啓発と地域の担い手育成の場の提供によって、佐渡版SDGsを推進する。 ・国内外の環境と経済が調和した持続可能な社会の実現および脱炭素化社会の構築に向けて連携・協定に関する基本協定を締結した専門機関から知見・ノウハウの提供やセミナー等の共催を通じた事業の伴走によって、持続可能な仕組みづくりに取り組む。	R5	6,622,015	3,311,007	①	SDGsパートナー加入数(社)	52社	20社	13社		地方創生に効果があった	（事業評価） 【SDGsの推進】 ・SDGsの普及啓発と地域事業者の取組促進を目的に「佐渡SDGsパートナー」の認定盾を贈呈した。佐渡SDGsパートナーの累計登録数は120社に達し、地域内でのSDGsの認知度向上に一定の効果が見られた。また、事業者のSDGs活動が「見える化」されることで、他の企業や市民への可視化による波及効果が期待でき、認定盾の存在が事業者社員のモチベーション向上で、登録検討中事業者にとっての参加に向けた動機づけとなる可能性がある。 ・SDGs未来都市である豊島区と連携し、豊島区で開催される芸術イベント「民俗芸術inしとま2025」に佐渡の鬼太鼓団体を派遣した。また、芸術イベントの前日には、地元小学校で体験型のワークショップを開催し、文化交流を深めることができた。 【島の環境】 ・EV公用車のカーシェアリングについて、観光オンシーズン(夏季)におけるレンタカー不足の解消と、島内でのEV車活用により脱炭素化と普及啓発、理解促進を図ることができた。 前年の結果から、一般利用回数は42%減少しており、減少の理由として、近隣のレンタカー料金と同程度の金額に設定したこと、短時間利用レンタルの仕組みを変更したことによる影響と分析。 【島の経済】 ・学生等が長期安価に利用できる宿泊施設を市内中心部に開業し、施設供用を通じて、学生の佐渡での活動を支援した。夏季休暇期間を中心に、多くの学生に利用いただいたが、晩秋～冬にかけては、宿泊数が伸びなかったことから、学生の実習利用や市民の利用等も模索していきたい。 ・事業期間:令和7年7月1日～令和8年3月31日 ・利用実績:238人泊(延べ宿泊者数) 【島の社会】 ・外部専門機関の知見・ノウハウにより、持続可能な仕組みづくりに大いに寄与いただいた。また、佐渡総合戦略アドバイザーを招聘した「佐渡未来講座」や「自然共生みらい会議」の開催により、ステークホルダーとの連携が深まったほか、島内外の企業同士の連携も進むなど、SDGs推進の好循環が生まれた。	(KPI未達成理由) ■KPI①SDGsパートナー加入数 ・特に小規模事業者では、労働力不足が深刻であり、日常業務に追われ、新たな取り組みに時間や人手を割く余裕がない状況が見られた。また、SDGsパートナー制度の存在や内容が十分に理解されていないことが、申請数の伸び悩みに影響している。制度のメリットの周知や申請手続きの分かりづらさを改善しつつ、引き続き、声掛けした事業者のうち、登録検討中の事業者や、新規事業者に働きかける。 ■KPI②市内総生産額 ・目標値には達しなかったものの、令和5年度市町村民経済計算(R8年5月末公表)によると、佐渡市の総生産額は、1,698億円で、経済成長率は前年比プラス5.6%となり、3年連続のプラス成長であった。これは、コロナ禍の終息後、観光入込客数が回復したことにより、島内の宿泊・飲食サービス業が前年度比52.7%増となったことが最も大きな要因であり、生産額はコロナ前の令和元年度と比べても20億円程度のプラスとなっている。 ・また、令和5年度が合併特例債を活用した事業の最終年であり、本庁舎建設などによる需要が増え、建設業が前年度比16.9%増となったことが主な要因と見料。 ・そのほか、企業誘致を含め、雇用機会の創出や移住定住の施策を強化してきているところであり、経済全体の底上げを通じて所得の向上を図っている。 ■KPI③今年度も佐渡に住みたいと思う人の割合 ・「市内に住みたい理由」として、「住みやすい基盤がある」が61.9%で最も多く、次いで「自然環境が魅力が」43.3%となっている。 ・「市外へ移りたい理由」として、「食・買い物の選択肢が少ない」が45.4%で最も多く、次いで「医療・介護の選択肢やアクセス不足」が35.5%となっており、生活していくうえで欠かせないインフラ(医療福祉、道路・公共交通、買い物施設)に不安を感じている人が多い。 ・「市外へ移りたい理由」として、「食・買い物の選択肢が少ない」が45.4%で最も多く、次いで「医療・介護の選択肢やアクセス不足」が35.5%となっており、生活していくうえで欠かせないインフラ(医療福祉、道路・公共交通、買い物施設)に不安を感じている人が多い。 年齢別では、10代は「進学等で他地域が適切」が移りたい理由として最も多く、10～40代は「仕事機会が少ない・通勤が不便」、50代以上は「生活費が高い・日常の利便が不足」が各上位3項目に入っている。	（実績を踏まえた事業の見直し） ■KPI①SDGsパートナー加入数 ・目標値に向けて増加しているものの、初年度と比較すると、加入数に伸び悩みが見られており、潜在的事業者の加入促進は時間を要するものであることを踏まえると、継続的かつ手段を変えた試みを行う必要があるところ。 ・これまでSDGsパートナーからの活動報告は文書による報告を求めるのみであったが、地域の多様な主体(佐渡島自然共生ラボ(新潟大学))からは「さらなるSDGsの推進には、SDGsパートナーのより主体的な参加型の取組が必要」との意見をいただいたところである。これを受け、市民や事業所のさらなる意識醸成や、パートナー同士による優良事例の模範展開、新たな事業創出等を目的として、パートナー参加型のイベントを実施する。 ・また、制度のメリットの周知や申請手続きの分かりづらさを改善しつつ、引き続き、声掛けした事業者のうち、登録検討中の事業者や、新規事業者に働きかける。 ■KPI②市内総生産額 ・引き続き、地方創生や離島振興等、様々な交付金を活用しながら官民連携で観光の高付加価値化や滞在型観光の推進、働き手と受入企業の確保等に取り組む。併せて、若者(学生)向け宿泊施設を活用し、関係人口の創出や地域人材の確保へとつなげていく。 ■KPI③今年度も佐渡に住みたいと思う人の割合 ・アンケート結果から生活していくうえで欠かせないインフラ(医療福祉、道路・公共交通、買い物施設)に不安を感じている人が多いが、インフラ・施設整備には多額な予算が必要であるため、国等に対して交付税等の財源支援をはじめとした要望を行うほか、関係課と連携し、課題解決に取り組む。 ■KPI④再生可能エネルギー設備等の導入件数 ・脱炭素化を自分ごとの課題として認識させ、太陽光をはじめとした再生可能エネルギーの地産地消を推進するため、一般家庭や事業等での再エネ導入の普及を促進し、太陽光発電設備等導入に係る経費の一部を支援する。また、市民へのEV普及啓発を推進する。
						②	市内総生産額(百万円)	170,300百万円	176,825百万円	169,804百万円					
						③	今後も佐渡に住みたいと思う人の割合(%)	78.4%	84.2%	74.4%					
						④	再生可能エネルギー設備等の導入件数(件)	0件	53件	165件					
		【多様な人財の確保・活躍促進事業】 ◆官民連携で組織する人材確保のための協議会が中心となり、個人のライフステージやキャリアアップの希望をかなえられる職場環境・地域社会の構築を整備するとともに、企業の認知度アップや島外への情報発信・採用の強化を促進することにより、島内外含めた若者・女性・外国人等の多様な求職者から選ばれ島となるための取組を進める。 【地域を核とした郷土愛醸成・担い手育成事業】 ◆島内の中学生や高校生の職場見学の支援を行うとともに、社会人即戦力や起業家マインド醸成の高校生向けプログラムを実施し島内企業との接点を作ること、若者の定着を促進する。 ◆市内すべての中学校で探究的な学びを重視した課題解決型職場体験や農業・自然・食の原体験獲得の機会を提供することで、郷土愛を育み、本市に貢献しようとする人材や地元産業の担い手育成を目指す。 ◆小学生と中学生と高校生と地域の人がそれぞれの立場と経験をともに対話を通して、互いの想いを共有するとともに自らの考えを確立することで、明日の佐渡をつくる人材の創出を目指す。 【若者の就業先定着を図る支援事業】 ◆様々な人材に活躍してもらうことを目的に、若者が継続して働くことができ、更なるスキルアップや夢を描くことができる環境づくりを推進することで、島外への人材流出を抑える。 【島留学推進事業】 ◆社会転出が多い年代で島留学を推進することで、島外から若者層の転入を促し、学校の存続はもとより地域の賑わいを創出。また、高校3年間の学びや地域との関わりの中で佐渡の魅力に触れ、関係人口から地域人材として地元企業で活躍できる人材として育成することで将来的な移住定住に繋げる。				①	島内企業が感じる労働力不足数(人)	-374人	-300人	-209人	（事業評価） 【多様な人財の確保・活躍促進事業】 ・全国の移住希望者に対して佐渡市の魅力を直接PRし、移住希望者の掘り起こしと移住相談につなげるため、JOINFエア2025へ出展し、2名の地域おこし協力隊応募(1名採用)につながった。 ・求職者と事業所をつなぐマッチングシステム(256事業所、2,731名が登録)により6,196件の採用実績があり、就業機会の増加による人手不足の解消に寄与した。 ・人材・労働力確保支援事業補助金により、各事業所のHP作成やインターンシップ受入など人材確保の取り組みに関して22件の支援を行った。 ・セミナーについては、「生成AIの活用(70名参加)」や「外国人材の雇用促進(19社参加)」等をテーマに実施した。 【地域を核とした郷土愛醸成・担い手育成事業】 ・小学4～6年生を対象に新潟工科大学が講師となり、プログラミング教室を開催(17名参加)。ドローンを扱う業種などを紹介し、道路設計の選択肢を広げることができた。 ・市内高校3校が、道路選択のために市内事業所を見学する際のバス借上げに係る費用を支援し、市内事業所のPRや働き方を学び、市内就職促進に取り組んだ。 ・子どもや保護者をターゲットに、市内事業所を知るイベント(産業サミット・島の推しごとグランプリ)を開催し、高校生からエンターナー者に対するインタビューや、市内外からの投票等の仕掛けづくりも行うことで、魅力ある企業の周知や学生の道路設計の視野を広げ、郷土愛の醸成を図ることができた。 ・佐渡と関係のある若手起業家4名と市内の起業家が講師となり、中学校4校で職業講話を実施し、学生の道路設計の視野を広げ、郷土愛の醸成を図ることができた。 ・また、起業家育成においては、R6年度に佐渡総合高校において創設した起業家・即戦力人材を育てるための部活動において、学校・NPO法人・市内IT企業と連携して、生徒たちのさらなるスキルアップのためのプログラムを実践した。今後の自走化に向けた収益事業を生むための各種チャレンジを行うことで、社会人基礎力・起業家マインドを育成や今後の事業のタネとなるアイデアを生むことができた。また、島内外の企業・起業家や若者同士の交流を促進し、次世代が輝ける仕組みづくり、賑わい創出の基礎を作ることができた。 ・「課題解決型職場体験学習」、「キャリア・カウンセリング研修」、「総合学習支援事業」については、学校担当者、協力事業所、キャリア・カウンセリングと、段階的・対象	(KPI未達成理由) ■KPI②若者(40歳未満)Uターン者数 ・新潟県全体でも転入者が例年より大きく減少し、特に20代前半の就職期の若者層で転出超過が続いていることに加え、都市部企業のフルリモート求人が減少している。 このことから、特に離島である当市における移住は他地域と比較して非常に厳しい環境にあると想定され、このことが達成未達の要因と考えられる。 ■KPI③移住者の定着率 ・Uターン者の定着率が低かったことが達成未達の要因であり、就労や住まい、生活環境のミスマッチを少なくするために移住情報の発信を強化し、移住後の定着支援を更に強化することが重要であると考えている。 ■KPI④島内高校生新卒における島内企業への就職人数 ・首都圏在住の潜在的・顕在的な移住・二地域居住等検討者を対象として、首都圏で移住及び二地域居住に関するPRイベントの開催するとともに、場所を問わず相談できるオンライン相談機能の拡充を図り、24時間365日対応できるよう、AIによる移住相談を受け付けられる体制の構築を進める。 ■KPI③移住者の定着率 ・移住希望者の「定着支援」に重点を置き、「さくらしテラス」における支援を強化する。 ■KPI④島内高校生新卒における島内企業への就職人数 ・佐渡総合高校の部活動について、即戦力人材の育成による市内企業への定着と、今後の高校生起業家輩出を目指し、R7年度に生まれた、生徒自らが考えた収益事業のアイデアを事業化していくとともに、部活動の株式会社化も達成して経営感覚を実践の場で身に磨いていくサポートを行う。 ・島留学について、R8年度は3校の受入れ体制初年度となるが、プロボラールを行って選定した団体と連携し、地域や			
					②	若者(40歳未満)Uターン者数(人)	148人	160人	123人						

【詳細】令和7年度新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)に係る事業実施結果報告
(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

NO.	交付対象事業の名称	事業内容	開始 年度	総事業費	交付金額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値	実績値を踏まえた事業の効果について																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
				単位:円	単位:円	指標	事業開始前	目標値 (R7年度)	実績値 (R7年度)	効果	実績に対する評価	KPI未達成理由	今後の方針																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
3	持続可能な島づくり～未来を築く人財総動員プロジェクト～		R7	28,969,493	14,484,746																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										